

No.	医療機関名	設置主体	2025年を見据えた自医療機関の役割 (病院からの回答)	現状(R2.7.1時点)							2025年							現状と2025年の病床数の差異						
				機能別病床数 ① (病院からの回答)							機能別病床数 ② (病院からの回答)							②-①						
				合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休養中等	非稼働	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休養・廃止等	介護医療院への転送	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休養・廃止等	介護医療院への転送
1	岐阜県立多治見病院	公立	・高度急性期及び急性期の患者を受け入れるため、病院機能を維持し、現在行っている救命救急医療、周産期医療、がん医療、災害拠点、小児救急、精神科身体合併症、緩和ケア、感染症、結核などの、高度・先進医療、急性期医療及び政策医療など他の医療機関では実施が困難で、地域に不足している医療に積極的に取り組んでいくとともに、地域医療支援病院として、近隣の医療機関と連携を深め、協力体制の充実や医師不足地域の医療機関やへき地医療機関へ診療支援を継続していく。	509	273	217		19			509	273	217		19			0	0	0	0	0	0	
2	総合病院中津川市民病院	公立	・東濃東部の中核病院として、急性期医療と回復期医療の一部を担う。 【参考】 ・平成28年度には、中津川市民病院(360床)及び国保坂下診療所(旧坂下病院)(199床)の許可病床559床のうち、379床へ削減。(▲180床) ・そのうち、中津川市民病院については、回復期病床を40床から39床増加し79床とした。 ・国保坂下診療所は、平成31年4月より有床診療所化し、ダウンサイジングを実施。(199床→19床 ▲180床)	360		237	79		44		360	237	79		44			0	0	0	0	0	0	
3	土岐市立総合病院※	公立	・当院の今後については、岐阜県・土岐医師会・土岐市・瑞浪市・JA岐阜厚生連による「地域医療構想における東濃中部の医療を考える研究会」、土岐市・瑞浪市・JA岐阜厚生連による「東濃中部の医療提供体制検討会」において東濃厚生病院との1病院化が最も適当とされ、土岐市・瑞浪市の中間地点に建設が予定されている。 ・1病院化への第一段階として、令和2年4月より当院は、JA岐阜厚生連を管理者とする指定管理者制度へ移行した。 ・新病院が設置されるまでの間は、両病院の間で機能分担・連携強化により地域医療を堅持していく。現在、土岐市・瑞浪市による一部事務組合を設置し1病院化を具体的に進めるべく進められている。 ・1病院化後の機能別病床数については、東濃医療圏で過剰となっている急性期は減床の予定であるが、土岐市・瑞浪市・JA岐阜厚生連で協議し、関連大学病院の意見も参考に検討する。 ・新病院での役割は以下のとおり。 「4疾病(精神を除く)にかかる診療体制の拡充」「二次救急医療体制の強化」「へき地医療体制の充実」「災害時の医療提供体制の強化」「地域医療機関等との連携の推進」「予防医療の促進」「地域包括ケアシステム構築」「新型コロナウイルスへの対応」など	350		165	60		125		0	未定						▲350	0	▲165	▲60	0	▲125	
4	多治見市民病院	公立	・今後進む高齢化社会に対応すべく高齢者の救急医療(肺炎、感染症等)を担い2次医療の受け入れ先として地域医療の確保を担う。 ・腎センターとして合併症を有する透析患者についても積極的に受け入れを行う。 ・循環器分野では不整脈治療に重点を置いていく。 ・内科専門研修プログラムによる地域医療を担える専攻医の育成を行う。 ・回復期リハビリテーションの稼働率を維持して重症度の緩和、在宅復帰率の向上を図る。	250		198	50		2		250	198	50		2			0	0	0	0	0	0	

2025年を見据えた自医療機関の役割及び4機能別の病床の変動について

No.	医療機関名	設置主体	2025年を見据えた自医療機関の役割 (病院からの回答)	現状(R27.1時点)							2025年度							現状と2025年の病床数の差異						
				機能別病床数① (病院からの回答)							機能別病床数② (病院からの回答)							②-①						
				合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休養中等	非障動	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休養・廃止等	介護医療院への転換	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休養・廃止等	介護医療院への転換
5	市立恵那病院	公立	・2017年の新病院建設時に、将来の人口動態等を見据えて地域の医療機能を検討し、現在の病床機能・規模を決定した。 ・新病院の運営実績及び今後の恵那市における医療需要の動向を検証しながら、地域の医療機能等のあり方を検討していく。	199		148	51					199	148	51					0	0	0	0	0	0
6	東濃厚生病院 ※	公的	・東濃厚生病院と土岐市立総合病院について、JA岐阜厚生連・瑞浪市・土岐市による「東濃中部の医療提供体制検討会」(平成29年9月～令和2年3月:9回開催)において、関連大学等の外部の有識者の意見を踏まえ、「1病院化が最も適当」との結論となった。その第1段階として、土岐市立総合病院の運営については、指定管理者制度に移行し、令和2年4月1日よりJA岐阜厚生連が管理者となった。現在、三者により、新病院の立地場所の選定、及び病院事業一部事務組合設立(令和3年4月)に向けて準備が進められている。 ・1病院化後の病床数については、現在、土岐市立総合病院が350床(含:地域包括ケア病床60)で東濃厚生病院が一般病床270床で運営しているが、診療圏の範囲、人口等を考慮し、高度急性期・急性期・回復期を有する400床程度の病院を予定しているが、機能別の病床数については、今後の検討課題である。 ・1病院化までの間は、両病院間で充実している診療科における相互協力を行い、地域医療を堅持して行く。 ・また、新病院開設後における現東濃厚生病院の跡地利用については、医療・介護需要、周辺環境等の分析を行い、地元行政と協議を進める。	270	55	215					0	未定					▲270	▲55	▲215	0	0	0		
6病院計				1,938	328	1,180	240	19	171	0	1,318	273	800	180	19	46	0	▲620	▲55	▲380	▲60	0	▲125	

※土岐市立総合病院と東濃厚生病院の病床再編を行い、400床程度の新病院を建築する計画を進めている。
2025年度の開院を目指し、土岐市・瑞浪市・JA岐阜厚生連により協議を行っている。